

## 修復記録 Restoration Record

### [油彩画]

アレッサンドロ・ベードリ・マッツォーラ  
《ウェヌスとアモル》

油彩、カンヴァス  
1048×610mm  
P.1962-3

保存状態:

張り枠がなく、カンヴァスの各辺には古い裏打ちを含む多くの素地の欠損が見られ、特に上下、右辺には甚だしい画面の重要な部分に及ぶ欠損が認められる。上部の人物の顔辺りには横の折れが認められ多くの絵具層の欠損部分に应变した補彩が認められる。背景のほかに人物の中にも描き加えが多く認められる。

修復処置:

1. 古い裏打ちの除去
2. 破れ補布
3. 破れ接合
4. 裏打ち
5. 裏打ち・張り込み
6. 欠損部充填
7. 補彩
8. ニス引き
9. 額装

ヴィクトリア・デュブル  
《静物》

油彩、カンヴァス  
421×503mm (処置後427×504mm)  
P.1959-89

保存状態:

画面は上下の辺で、実際に描かれた寸法より小さい張り枠に張られており、サインが画面の下辺に重なっている。保護ニスの黄変が甚だしい。

修復処置:

1. 画面サイズの拡張
2. ストリプトライニング
3. オリジナル木枠加工
4. 画面洗浄
5. 充填
6. 補彩
7. ニス引き
8. 額修理
9. 額装改良

(処置: 岡崎純生・河口公男)

### [石彫刻]

レオナルド・ピストルフィ  
《ドゥリオ家のための墓碑: 思い出によって癒される悲しみ》

地山装飾「花のある台座」の右半分  
大理石  
S.2001-2

保存状態:

表面には砂、ホコリの堆積、昆虫の排泄物、青粉の発生、酸化鉄の黄ばみなどが認められた。側面にはひびが入っている。

保存処置:

1. 表面洗浄

### [ブロンズ彫刻]

以下のブロンズ彫刻は19世紀ホールに展示されていたロダン作品の処置である。今回の処置では、防災対策(特に地震発生時の転倒防止)として、新しい石台座に彫刻を強く固定し、免震性能をもつテフロン加工を施した簡易すべり板を装着し、再展示することを目的とした。屋内彫刻であるため、防災対策および保存処置はすべての彫刻において共通であり、以下の通りである。

防災対策:

1. 彫刻の足下に固定金物を装着
2. 新しい石台座の製作
3. 簡易すべり板の装着

保存処置:

1. 付着物の除去
2. 表面クリーニング
3. 錆の除去
4. パatina補彩
5. ワックス保護

オーギュスト・ロダン  
《接吻》

87×51×55cm  
彫刻単体重量88kg  
S.1959-4

保存状態:

表面の摩耗、汚損、ワックスの消失、錆の発生、表面の付着物

《美しかりしオーミエール》

50×31×24cm  
S.1959-5

保存状態:

表面の摩耗、汚損、ワックスの消失、錆の発生

《石を負うカリアティード》

44×32×30cm  
S.1959-10

保存状態:

表面の摩耗、汚損、過去の補彩過多

《うづくまる女》

96×58×55cm  
彫刻単体重量136.5kg  
S.1959-20

保存状態:

表面の汚損、ワックスの消失、錆の発生

《フギット・アモール(去りゆく愛)》

36×45×20cm  
S.1959-22

保存状態:

表面の摩耗、汚損、ワックス過多

《ネレイスたち》

43×47×35cm  
S.1959-35

保存状態:

表面の摩耗、汚損、ワックスの消失、ワックス過多、錆の発生

《オルフェウス》

146×80×126cm  
彫刻単体重量223kg  
S.1959-37

保存状態:

表面の摩耗、汚損、ワックスの消失、錆の発生、表面の付着物

《説教する洗礼者ヨハネ》

201×58×127cm  
S.1959-52

保存状態:

表面の摩耗、汚損、錆の発生、表面の付着物、過去の補彩過多

以下の作品は現状では石台座および簡易すべり板の装着はない。

エミール＝アントワース・ブールデル

《瀕死のケンタウロス》

72×52×22 cm

彫刻単体重量45 kg

S.1959-56

保存状態:

表面の摩耗、汚損、ワックスの消失、錆の発生、パティナの剥離

ポール・ダルデ

《永遠の苦悩》

50×45×37 cm

彫刻単体重量40.5 kg

S.1959-61

保存状態:

表面の汚損、パティナの剥離、ワックス保護なし

エミール＝アントワース・ブールデル

《首のあるアポロンの頭部》

50×22×23 cm

彫刻単体重量10 kg

S.1969-1

保存状態:

表面の汚損と付着物、ワックスの消失、錆の発生、鑄造材料の付着

(処置: 邊牟木尚美・河口公男)